

和牛ほ育管理の改善と繁殖牛（第11回全共代表牛）の 栄養コントロール ～飼料設計と体重測定を活用して～

十勝農業改良普及センター 太田 成俊

1 活動のねらい

（1）和牛ほ育管理の改善（更別和牛素牛の市場性の向上）

購買者ニーズにあった肥育素牛生産を目指し、関係機関（JAさらべつ、試験場、十勝農協連など）と連携し、定期的に技術的な現場検討を実施した。ほ育管理の改善を中心に技術的支援をした。

（2）繁殖牛（第11回全共代表牛）の栄養コントロール

平成29年9月宮城県で開催される全共出品のため、候補牛選びが行われた。繁殖牛では更別和牛改良組合から第5区（繁殖牛群4頭）で1頭選抜され、北海道代表牛に向け関係機関（JAさらべつ、十勝農協連）と連携し、栄養コントロールの支援をした。

2 活動の経過

（1）和牛ほ育管理の改善（更別和牛素牛の市場性の向上）

JAさらべつ及び関係機関と連携し、定期的に現場検討（写真1）を実施した。人工ほ乳管理の対象農家2戸に対して、平成28年6月と9月に代用乳銘柄の変更と給与量の増加（図1）を普及センターから提案した。対象の2戸とは、改善結果を確認すると共に、合意を取りながら管理の変更を進めている。巡回直後の参加者全員ミーティングで意見を出してもらい、農場への提案書と発育結果グラフを普及センターで作成し、提案する活動をした。



写真1 現場確認と対策の検討

（2）繁殖牛（第11回全共代表牛）の栄養コントロール

4月の十勝選抜会において、更別和牛改良組合から第5区（繁殖牛群4頭）に1頭が代表牛となった。6月の北海道最終選抜会、9月の第11回全国和牛能力共進会出品に向けた支援をJA及び十勝農協連と連携し実施した。JA職員が主体となって毎朝行われている調教に4ヶ月間週2～3回程度参加し、肉付きの把握と栄養コントロールを提案した。また体重を実測し（写真2）、生産者に対し数値で体重の変化を提示した。体重増加の変化から、粗飼料が変更されていたことがわかり（図3）、再度飼料設計による栄養管理を再提案した。



写真2 体重測定

3 成果の概要

（1）和牛ほ育管理の改善（更別和牛素牛の市場性の向上）

2戸とも良好な発育が確認され、うちA農家は、ほ育管理を変更したことにより、市場平均DG以上頭数割合が高く（23.6→56.1%）なった。また出荷日齢も早くなり、DGも増加した（図2）。

（2）繁殖牛（第11回全共代表牛）の栄養コントロール

現状より太らせてはいけなことが課題であったため、飼料設計により給与すべき粗飼料の原物量をはかりで実測し（写真3）、配合飼料給与をやめ、不足するビタミンを給与する適切な管理に変更した。

日々の調教運動と栄養コントロールにより、体重を適切に保つことができ9月の全共当日は最も良い状態で出品することができた。

4 留意点

ほ育管理については、生産者との合意（発育目標や労働など）を取りながら検討する必要がある。

和牛繁殖牛の栄養管理は、農場の既存施設（群分けや連動スタンションの有無）を考慮すべきである。